

薬剤師レジデント研修マニュアル

令和7年12月

兵庫県立淡路医療センター薬剤部

内容

1	目的	1
2	研修期間	1
3	研修概要	1
4	研修項目	1
5	研修スケジュール（1日）	3
6	研修内容	5
7	研修記録、報告等	6
8	研修評価	6
9	その他	6

1 目的

実務経験に基づいた講義と臨床実務研修をとおして、病院薬剤師の基本的知識、技術と態度を習得するとともに、将来的に高度医療に対応した臨床薬学管理やチーム医療が実践でき、安全で安心な良質の医療に貢献するための基本的技能を備えた薬剤師を育成する。

2 研修期間

2年

3 研修概要

研修病院において、日本医療薬学会研修ガイドラインに準拠したカリキュラム（1年毎の更新制）による研修を行う。

指導にあたっては、レジデント担当薬剤師（主・副）が中心となるが、全薬剤師が指導にあたる。

（1）医療薬学一般課程（1年目）

臨床薬剤業務に必要な医薬品及び各種業務の基本知識・技能を修得する。

（2）医療薬学専門課程（2年目）

高度な臨床薬剤研修からチーム医療実践技能を修得する。

4 研修項目

（1）医療薬学一般課程（1年目）

（1-1：講義）19単位

- ア 組織（兵庫県、病院、薬剤部、薬剤師会）
- イ 関係法規（薬剤師法、医療法、麻薬及び向精神薬取締法、薬機法）
- ウ 調剤（内用・外用・注射）
- エ 製剤業務
- オ 注射薬混合・調製（抗がん剤）
- カ 抗がん剤レジメン管理
- キ 医薬品管理（麻薬、向精神薬、覚醒剤原料、毒薬、特定生物由来製剤、治験薬）
- ク 医薬品情報管理
- ケ 薬剤管理指導・病棟薬剤業務
- コ 薬物血中濃度モニタリング（TDM）
- サ 臨床試験
- シ チーム医療
- ス 診療報酬制度
- セ セーフティーマネジメント（医療事故防止対策）
- ソ 薬薬連携
- タ 学術発表の方法（抄録記述方法含む）
- チ 輸液概論（輸液の基礎、静脈栄養、配合変化）

- ツ 薬物療法概論
- テ 医薬分業（院外処方箋発行）

※別添1参照

講義：1コマ30分～1時間

担当者：原則として業務担当者

（1-2：実習）6単位

- ア 実践調剤技術
- イ 実践薬剤管理指導研修Ⅰ（チーム医療における薬剤管理指導の基礎的技能習得）
- ウ 24時間対応研修（休日・夜間対応）
- エ 研究発表（テーマ設定、学会発表、報告書）
- オ 人材育成（薬学部5年次学生実習指導）
- カ 救急外来総合実習

（1-3：研修受講）

- ア 兵庫県立病院薬剤師研修（県立病院薬剤師合同研修）
- イ 院内研修（Webセミナー、Bridge、部内）
- ウ 院外研修（学会、薬剤師会、医師会、支部会など）

（2）医療薬学専門課程（2年目）

医療チームのメンバーとなり、薬学的管理が行える専門的技術の習得
院内委員会への参加

（1-2）（1-3）の実習は継続する。

5 研修スケジュール（1日）

(1) 1年目年間スケジュール

1年目		(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
講義（随時）														
調剤業務	一般調剤													
	注射調剤													
	院内製剤													
	無菌製剤 （抗がん剤）													
管理業務	毒薬・向精神薬													
	麻薬													
	特定生物由来													
	病棟・外来薬品管理													
	手術室薬品管理													
	レジメン管理													
	医薬品情報管理（DI）													
	治験薬管理													
薬剤管理指導・病棟薬剤師業務														
TDM業務														
チームラウンド・カンファレンス参加														
準夜・深夜・休祝日日勤業務														
臨床研究（学会発表）			テーマ立案→調査研究									発表、評価		
講義・研修会・※県立病院薬剤師研修					※									
学生実習指導補助														

- ・（※）県立病院薬剤師研修は1日のみ
- ・研修状況および研究テーマにより再調整する
- ・基本研修時間：午前8時45分から午後5時30分まで（休憩1時間含む）

(1) 2年目年間スケジュール

2年目		(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
調剤業務	一般調剤													
	注射調剤													
	院内製剤													
	無菌製剤 (抗がん剤)													
管理業務	毒薬・向精神薬													
	麻薬													
	特定生物由来													
	病棟・外来薬品管理													
	手術室薬品管理													
	レジメン管理													
	医薬品情報管理 (DI)													
	治験薬管理													
薬剤管理指導・病棟薬剤師業務														
TDM業務														
チームラウンド・カンファレンス参加														
準夜・深夜・休祝日日勤業務														
臨床研究 (学会発表)		テーマ立案→調査研究 発表、評価												
講義・研修会・※県立病院薬剤師研修				※										
学生実習指導補助														
院内委員会への参加														

- ・※県立病院薬剤師研修は1日のみ
- ・研修状況および研究テーマにより再調整する
- ・医療薬学一般課程(1年目)での研究テーマを発展することを原則とするが、新たなテーマに取り組むことも可とする

6 研修内容

(1) テキストについて

- ア 講義テキストは兵庫県立薬剤師会新人研修標準マニュアルを基本とする。
- イ 必要に応じて、資料、文献等を業務担当薬剤師が準備する。
- ウ マニュアル以外に使用した資料は、指導の標準化のために、レジデント担当薬剤師に提出する。
- エ 実地研修テキストについては、必要に応じて指導薬剤師が準備する。

(2) 講義

各業務の開始前に業務主（副）担当者又は担当次長が講義を実施する。1 講義あたり 30 分から 1 時間とする。講義日程の詳細はレジデント担当薬剤師がスケジュール計画を作成し、業務ローテーション担当者が時間等を決定する。レジデント担当薬剤師は、実際の講義スケジュールの記録を保管する（別添 1）。講義にて使用した資料等は講義担当者がその記録を残す。レジデント担当薬剤師は研修記録（「7 研修記録、報告等」の項参照）とともに資料等も保管する。

(3) 実践調剤技術研修

電子カルテ・調剤支援・注射薬自動払い出し機等のシステムおよび安全管理

ア 調剤（内服・外用）

処方鑑査、疑義照会、計数調剤、散 3 剤秤量、水剤秤量、医薬品の基本的知識の習得、鑑査、窓口業務等の調剤業務全般を研修する。

調剤業務の中で、麻薬、向精神薬等の特別な手順のある薬品の取り扱いを習得する。治験薬処方についても実施する。

イ 注射

処方鑑査、疑義照会、特定生物由来製剤、向精神薬、注射薬取りそろえ、注射薬自動払い出し機等について習得する。治験薬処方についても実施する。

ウ 抗がん剤調製

外来および入院患者への抗がん剤注射調製を行う。性状（液、粉末等）や投与経路（点滴、静注や皮下注等）の異なる注射抗がん剤の調製技術を習得する。また、各薬剤の希釈濃度、調製方法、安定性等の医薬品情報を習得する。

(4) 実践服薬指導研修 I

ア 外来服薬指導

外来患者へ、抗がん剤治療等について服薬指導を実施する。外来患者への指導における注意点、指導記録を通して他職種との情報共有等について習得する。

イ 入院薬剤管理指導

薬剤管理指導業務として、入院患者について、患者情報の収集、薬物治療計画、服薬指導、他職種への情報提供、適切な薬剤管理指導記録等を研修する。1 年目は定期的に病棟を変更し、多くの診療科を経験する。2 年目は特定の担当診療科を決定し、継続して業務を実施する。また、この中から 2 年目の個人研究テーマを設定し、研修のまとめとして研究結果を発表する。また、2 年目は各種医療チーム、担当病棟・診療科のカン

ファレンスに参加し、他職種との協働を経験する。

(5) 24時間対応研修（休日、夜間研修）

休日・夜間の業務を体験し、24時間薬剤師の必要性を研修する。

(6) 個人研究（テーマを設定、学会等で発表、報告書の提出）

1年ごとにテーマを設定し、研究テーマシートを作成する（別添2）。調査・研究し、部内および学会等で発表する。テーマは薬剤部業務のなかから特に興味のある内容とする。2年目は、薬剤管理指導業務のうち担当診療科に関連する内容をテーマとして選択することが望ましい。

学会発表を念頭におき、年度の初頭（新人研修と同様に5～6月）にテーマを設定し計画的に研究を進めるよう担当薬剤師は進行状況を把握しておく。

(7) 県立病院薬剤師研修（県立病院薬剤師合同研修）

毎年度開催される兵庫県立病院薬剤師研修（病院局主催）に参加する。この機会を利用して他の県立病院薬剤師と情報交換をおこなう。

(8) 院内セミナー、その他

院内で開催されるセミナー等は原則、出席する。

(9) 人材育成（薬学部5年次学生実習指導）

薬学部学生の学生実習においては中心となって学生への指導を担当する。（1年目上半期の学生受け入れがある場合は指導からは除外することもある。）

(10) 院内委員会への参加

薬事委員会、ケモレジメン委員会、治験審査委員会の資料作成等を研修する。実際に委員会に参加（見学）し、より専門的な経験を積む。

7 研修記録、報告等

研修内容は研修記録にまとめる。部内講義は講義当日、講義以外の研修については、1回/週、レジデント担当薬剤師に提出する。（研修記録様式：別添3）

セミナー等の参加記録は、日病薬病院薬学認定薬剤師研修支援システム(HOPESS)の受講履歴を代用する。

担当薬剤師は、研修記録内容を確認し、正しく理解できているか判断し、必要に応じて再指導する。研修記録は部内文書として薬剤部長に報告後、保管する。

8 研修評価

2年目研修終了後に研修評価を行う。

修了証は1年ごとに発行する。

9 その他

上記に記載していない業務であっても、可能な限りすべての薬剤部業務を実施するよう努める。

兵庫県病院薬剤師会に入会し、日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師制度の単位を計画的に取得し、認定・専門薬剤師の取得を目指す。

講義スケジュールの記録

講義内容	指導薬剤師	日時
ア 組織（兵庫県、病院、薬剤部、薬剤師会）		
イ 関係法規（薬剤師法、医療法、麻向法、薬機法）		
ウ 調剤（内用・外用・注射）		
エ 製剤業務		
オ 注射剤混合・調製（抗がん剤）		
カ 抗がん剤レジメン管理		
キ 医薬品管理（麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等）		
ク 医薬品情報管理		
ケ 薬剤管理指導・病棟薬剤師業務		
コ 薬物血中濃度モニタリング（TDM）		
サ 臨床試験		
シ チーム医療		
ス 診療報酬制度		
セ セーフティーマネジメント（医療事故防止対策）		
ソ 薬薬連携		
タ 学術発表の方法（抄録記述方法を含む）		
チ 輸液概論（輸液の基礎、静脈栄養、配合変化）		
ツ 薬物療法概論		
テ 医薬分業（院外処方箋発行）		

★ 疾患と薬物療法についての講義等は院内勉強会を活用するとともに、
薬剤管理指導業務、チーム医療の実務研修のなかで行う。

研究テーマシート

【テーマ】	【氏名】
【背景・目的】	
【方法・計画】	
【参考文献】	

改訂の記録

	年 月 日	改 訂 内 容	備考
初版	平成 26 年 4 月		
第 2 版	令和 元年 7 月	現行業務に合わせた改訂	
第 3 版	令和 4 年 11 月	・ 講義スケジュールの記録の重複部分削除 ・ 日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師制度 研修記録を参考として追記	
第 4 版	令和 6 年 2 月 22 日	年間スケジュールの県立病院全体研修の時期を 5 月から 6 月に変更	
第 5 版	令和 7 年 2 月 6 日	7 セミナー等の参加記録について改訂	
第 6 版	令和 7 年 12 月 11 日	4 研修項目、別添 1 のリスクマネジメントをセーフティーマネジメントに修正	